

平成 27 年度 HIV 抗体スクリーニング検査について

○梅澤 昌弘, 黒澤 美穂, 後藤 慶子, 土井 育子, 本谷 匠, 永田 紀子,
中本 有美, 鯉渕 祐子, 山城 彩花, 木澤 千里, 相原 義之, 山本 和則,
小川 郁夫, 深谷 節子, 清水 祥子, 増子 京子

要旨

平成 27 年度に HIV 即日検査を受診した 867 名の血清について, HIV 抗体スクリーニング検査を行った。その結果, HIV 抗体陽性が 3 名であり, 陽性率は 0.35%であった。検査受診者は男性 629 名, 女性 238 名と男性が女性の 2.6 倍で, 年齢は 20~39 歳が 76%を占めた。検査の受診理由は, 異性間の性的接触が最も多く挙げられた。

キーワード: HIV (human immunodeficiency virus), AIDS (acquired immunodeficiency syndrome), スクリーニング検査

1 はじめに

HIV (human immunodeficiency virus) は, 後天性免疫不全症候群 (AIDS : acquired immunodeficiency syndrome) を発症させるウイルスであり, 免疫系の破壊による免疫不全により日和見感染症や悪性腫瘍を引き起こす¹⁾。HIV 感染症は適切な治療により AIDS 発症を遅らせることができるが^{1) 2)}, 無症候期が長いことから治療の遅れや感染拡大が問題となる感染症である。

茨城県では, 茨城県性感染症検査実施要綱に基づき, 各保健所で HIV 検査を無料・匿名で行っている。さらに, 水戸保健所および土浦保健所においては, 茨城県 HIV 即日検査実施要領に基づき, HIV 抗体即日検査を実施している。衛生研究所では, 水戸保健所および土浦保健所の検査課廃止に伴い, 平成 26 年度より HIV 抗体スクリーニ

ング検査を実施しており, 以下に平成 27 年度に実施した結果について報告する。

2 材料および方法

平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月に, 水戸保健所および土浦保健所で HIV 即日検査を受診した 867 名の血清について, 「エスプライン HIV Ag/Ab」(イムノクロマト法)を用いて HIV 抗体検査を行った。

3 結果および考察

3-1 陽性数

スクリーニング検査の結果, 867 名のうち陽性が 4 名, 陰性が 862 名および判定保留が 1 名であった。陽性および判定保留の 5 名については, 保健所から外部機関へ確認検査が委託された。その結果, スクリーニング検査陽性のうち 3 名は確認検査も陽

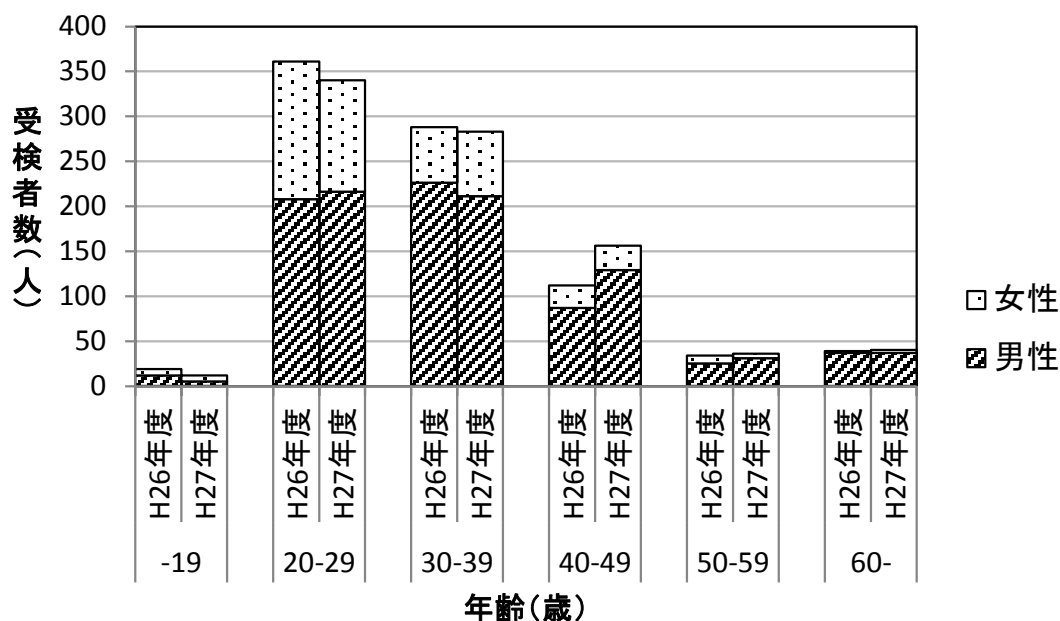


図1 年齢群別 HIV スクリーニング検査受診状況

性であった。陽性となった検査受診者は、同性間性的接触により受診した日本国籍の30歳代、40歳代の男性各1名及び異性間性的接触により受診した日本国籍の30歳代の男性1名であった。スクリーニング検査陽性のうち1名と、判定保留の1名については、確認検査の結果、抗体陰性であることが分かった。

3-2 性別・年齢

検査を受診した867名のうち、男性は629名(72.5%)、女性は238名(27.5%)であり前年度と同程度であった。年齢群別の検査受診人数を図1に示した。各年齢群の受検者数は、20歳未満が12名、20～29歳が340名、30～39歳が283名、40～49歳が156名、50～59歳が36名および60歳以上が40名であった。男女別にみると、男性は20～29歳が216名、次いで30～39歳が211名と

20～39歳に集中しており、合わせて427名(全体の49.3%、男性の67.9%)を占めた。また、40～49歳が129名(14.9%)と前年度より4.7%の増加がみられた。女性は20～29歳が124名と突出して多く、次いで30～39歳が72名であり、合わせて20～39歳が196名(全体の22.6%、女性の82.4%)を占めた。検査受診者全体の平均年齢は34.3歳、男性は35.7歳、女性は30.7歳であった。

3-3 国籍

検査を受診した867名のうち、日本国籍の検査受診者は843名(97.2%)であった。外国国籍の検査受診者は24名(2.8%)であり、そのうち男性が19名(20歳代が6名、30歳代が6名、40歳代が4名、50歳以上が3名)、女性が5名(20歳代が4名および40歳代が1名)であった。

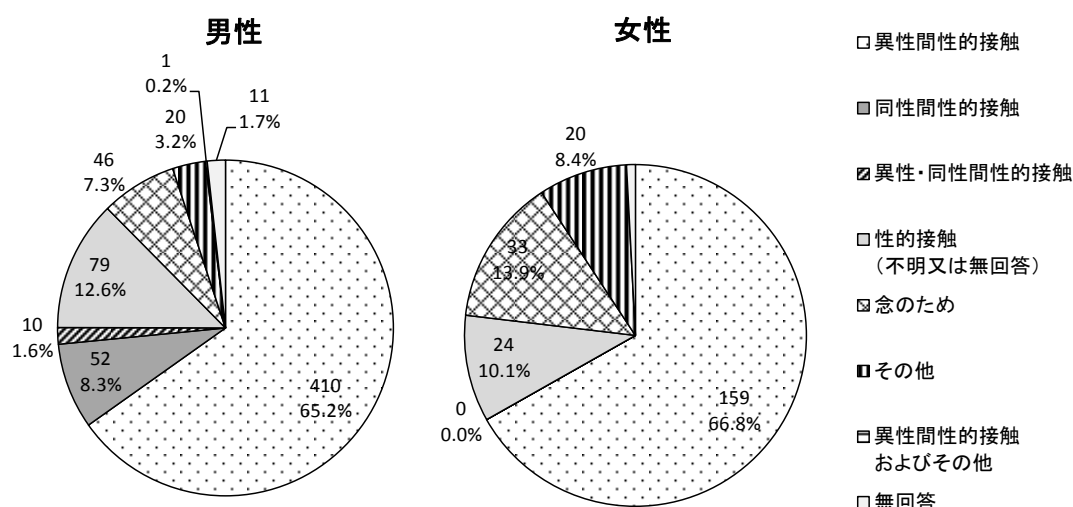


図2 HIVスクリーニング検査受診理由

3-4 検査受診理由（感染経路）および感染から検査受診までの期間

検査の受診理由を図2に示した。「異性間性的接触」が男性で410名（65.2%）、女性で159名（66.8%）、検査受診者全体で569名（65.6%）と大部分を占めた。女性においては、それ以外の理由の多くが「念のため」又は「その他」であったのに対し、男性においては「同性間性的接触」「異性・同性間性的接触」が62名（9.9%）みられた。「その他」の内容は、針刺し事故等による血液接触（9名）、成績書発行のため（6名）が多く、このほか輸血（2名）などであった。

感染が疑われる日から検査を受けるまでの期間については、3ヶ月未満が69名（9.2%）、3ヶ月以上1年未満が594名（78.8%）、1年以上が61名（8.1%）、不明又は無回答が30名（4.0%）であった（受

診理由に感染が疑われる行動を挙げた754名を対象とした）。HIVスクリーニング検査においてより正確な結果を得るために必要とされる、感染が疑われる日から3ヶ月以上経過している検査受診者がほとんどであったが、前年度と比較すると、感染が疑われる日から3ヶ月未満の検査受診者が4.7%増加していた。

4 まとめ

平成27年度に行ったHIVスクリーニング検査の結果、867名のうち陽性が3名（0.35%）であった。全国の保健所等におけるHIV抗体検査での抗体陽性率は、平成18年～27年の10年間は0.28～0.38%で推移しており³⁾、平成27年度の本県のスクリーニング検査の陽性率は全国と同様であった。検査受診者の性別・年齢については、20～39歳の男性が全体の49.3%を占めており、各年齢群においても男性が多い傾向

がみられ、特に 40～49 歳の男性では前年度より増加しており、陽性例もみられた。検査受診の理由は、男女共に異性間の性的接触が大部分を占めたが、男性においては同性間の性的接触が 9.9%あり、前年度より 2.3%の増加がみられた。日本における HIV 感染者の大多数を占めるのは 20～39 歳の日本国籍の男性であり、その多くが同性間性的接触による感染であるが^{4) 5)}、本県の HIV スクリーニング検査においても同様である。また、感染が疑われる日から 3 ヶ月未満の検査受診者が前年度より 4.7%増加しており、より正確な結果を提供するためには HIV スクリーニング検査を受診する方の理解が必要である。

5 文献

- 1) 国立感染症研究所，感染症疫学センター，感染症情報，AIDS（後天性免疫不全症候群）とは
- 2) 日本エイズ学会 HIV 感染症治療委員会，HIV 感染症「治療の手引き」第 19 版
- 3) 公益財団法人エイズ予防財団，API-Net，日本の状況＝エイズ動向委員会報告「参考資料」
- 4) IASR 「HIV/AIDS 2014」
Vol. 36 p. 165-166: 2015 年 9 月号
- 5) 厚生労働省エイズ動向委員会「平成 27 年エイズ発生動向 一概要一」